

令和6年度 福島小学校 学校関係者評価

番号	評価項目	よくできている			できている			あまりできていない			できていない			自己評価 4~1	考察(現在の状況における成果○と課題●) ※番号:評価項目	評価者からのコメント (成果○、課題●)	判定
		児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師	児童	保護者	教師				
学力向上について	1 「読み・書き・計算」力の向上をめざして習熟の時間やぐんぐんタイムの充実、ICTの活用を図る。 ☆「学んだこと」を明言できる	48%	25%	0%	40%	59%	67%	11%	15%	33%	1%	1%	0%	3	質問1について ◎ 「読み・書き・計算」力の向上について、児童、保護者の「できる」という評価が高いことに対して、教師は「あまりできていない」という評価が目立つが、昨年度の評価に比べると高い結果になっている。児童の日々の学習へ向かう姿勢や教師の指導の工夫の工夫の成果の表れだと考えられる。 質問2について ● タブレットの活用が、児童にとって個別最適な学びの有効な手立てとなっていることが肯定的な意見に表れている。しかし、保護者や教師にとっては、さらに充実させ、児童の主体的な学びへつなげていきたいという思いが「あまりできていない」という回答につながっていると考えられる。	◎ タブレットを活用して児童の実態に応じた学びが行えていることが、串間市学力調査やみやざき学力調査等の結果にも表れたのではないかと思う。これからもタブレットを適切に活用し、学力向上につなげてほしい。 ◎ 主題研究で「ひなたの学び」の具現化を図る発問についての研究が日常の授業に活かされ、児童の授業内容の理解にも深まりがあったのではないか。継続して取り組んでほしい。	4
	2 児童個々の実態に応じた指導(個別最適な学び)の工夫、児童が主体的に学び合う学習の具現化(協働的な学び) ☆「個別最適な学び」「学び合い」の姿が見える	38%	12%	4%	47%	79%	63%	13%	9%	29%	2%	0%	4%		● 日々の授業を通して、児童の実態に応じた分かりやすい授業づくりを継続していきながら、児童が「分からない」ことを質問できる環境づくりも必要だと思う。 ● タブレットの活用を図られている中で、使い方のマナーやルールについての学びも大切にしてほしい。	● 「ひなたの学び」で身に付いた力がどのように活かされていくのか、今後に期待したい。	
	3 授業に関する課題を明確にし、授業力向上を図る。 ☆主題研究の充実、福小UDの活用、わかる授業	51%	15%	4%	38%	82%	63%	8%	3%	33%	2%	0%	0%		以上により、自己評価を3とした。	以上により、自己評価を3とした。	
豊かな心の育成について	4 児童の生活を支える基礎的・基本的な行動様式の確実な定着。 ☆当たり前3力条、清掃、自律できる生活態度	46%	8%	0%	42%	67%	40%	10%	21%	56%	1%	4%	4%	2	質問4について ● 昨年度、一昨年度に続いて低評価が続いている。当たり前3力条の「あいさつ・きまりを守る・正しい言葉遣い」については地域だけでなく、校内でも充分に身に付いていない様子が見られ、常時指導を継続している。児童の実態を的確に把握し、児童が必要性を実感できる指導の仕方を見直し、精選した指導を行うようにする。校内における清掃活動は、「とむすじあ」のきまりを守り行うことができている。	◎ 校内で当たり前3力条の指導を継続して行っていることはよいと思う。当たり前3力条の内容は、社会性を身に付ける上でも大切なことなので、学校・家庭・地域の大人が手本となるようにしていくとよい。校内では、上学年がリーダーとなり、下学年には日々の学校生活の中で学んでほしい。	2
	5 全ての児童が「学校へ行きたい」と思う、魅力的な学校づくり ☆各種アンケート、相談、個別の支援計画、アクションプラン等	71%	12%	0%	23%	77%	72%	4%	10%	20%	1%	1%	8%		◎ 個の特性への指導や支援の在り方について、外部講師から研修を受ける機会を全職員で実施できたことがよいと思う。これからも、積極的に学ぶ機会を設けてほしい。 ◎ 児童だけでなく、教師も安心できる学校づくりを続けてほしい。児童が通ってよかった、保護者が行かせてよかった、先生方が勤務してよかった、地域の方が福島小はいいなと思える学校づくりを目指してほしい。	● 登校時には、気持ちのよい挨拶が聞かれるが下校時には、挨拶に元気がなく、落ち着きのない行動が見られ心配している。また、自分の言葉で正しい言葉遣いで話せるような指導も必要だと思う。	
	6 個の特性に応じた自己指導能力や環境に適応する力を高める。 (☆スクールワイドPBSや生徒指導の3機能を生かした指導や授業)	73%	14%	0%	23%	75%	80%	3%	10%	20%	0%	1%	0%		● 特別支援教育部や市特別支援教育支援員を中心に、支援が必要な児童に個別に支援している。ただし、すべての支援が必要な児童に対して、充分な支援を行っていない現状もある。	● 登校時には、気持ちのよい挨拶が聞かれるが下校時には、挨拶に元気がなく、落ち着きのない行動が見られ心配している。また、自分の言葉で正しい言葉遣いで話せるような指導も必要だと思う。 ● 特別支援に関わる児童だけでなく、すべての児童に対する指導・支援の在り方をこれからも追究していくほしい。	
体力向上と健康安全について	7 自他の命を大切にする実践力を育てるため、家庭、地域、関係機関との連携を図った指導の充実 (☆感染症対応、SOSの出し方、安全な登下校や避難、家庭や地域、関係機関との連携)	49%	11%	0%	35%	76%	68%	12%	11%	28%	3%	2%	4%	2	質問7について ● 前年度と比べると、保護者と教師の肯定的な評価がわずかに下がっている。感染症対応について、学校の状況を家庭に伝えることができないことが、登下校時の様子で心配になることが見られたことが評価につながっていると考えられる。今後、感染症の流行について学校の現状を必要に応じて家庭に伝えたり、登下校指導の在り方を工夫・改善したりすることが考えられる。	◎ 今年度初めて5月に運動会を開催されたが、年度当初に大変だったと思うが、観覧していて児童のがんばりが伝わってきてよかったです。 ◎ 天候不順等でプールの実施ができなかったが、命を守るために判断だったと思う。 ● 登下校時に民生委員さんやスクールガード隊の方々、地域の方々に見守られているが、南海トラフ等の災害が起こった際に、自分の身を自分で守るような行動がされるように、日々学校や地域で避難するときにはどう行動すればよいのかを考えるよう指導しておく必要がある。また、学校として、緊急な災害を想定し、連絡の在り方を検討する必要がある。安心・安全メールを届けられない場合はどうするのかなど家庭や地域、関係機関との連携を図っておく必要があると思う。	3
	8 体育、家庭科、特別活動などの教科指導や家庭や地域と連携した日常生活における体育・健康活動による、健康的な生活習慣の形成 (☆スクールスポーツプラン、運動の日常化につながる体育指導、保健調査の結果分析と課題明確化、家庭との連携)	54%	13%	0%	33%	77%	63%	11%	10%	33%	2%	1%	4%		● 今年度も運動会を午前中に実施したことやプール指導が天候(雷注意報)で実施できない回数が多かったことが、保護者や教師の肯定的な評価が下がってしまった要因ではないかと考えられる。運動会については、保護者からの様々な意見を考慮しながら、次年度の計画へと活かす必要がある。プール指導については、児童の安全を第一に考えた実施の判断をしたことで、天候(雷注意報)などでプール指導ができないことが多くあった。	● 今年度初めて5月に運動会を開催されたが、年度当初に大変だったと思うが、観覧していて児童のがんばりが伝わってきてよかったです。 ● 天候不順等でプールの実施ができなかったが、命を守るために判断だったと思う。 ● 登下校時に民生委員さんやスクールガード隊の方々、地域の方々に見守られているが、南海トラフ等の災害が起こった際に、自分の身を自分で守るような行動がされるように、日々学校や地域で避難するときにはどう行動すればよいのかを考えるよう指導しておく必要がある。また、学校として、緊急な災害を想定し、連絡の在り方を検討する必要がある。安心・安全メールを届けられない場合はどうするのかなど家庭や地域、関係機関との連携を図っておく必要があると思う。	
市の教育の動向への対応	9 市の教育施策や地域実情に応じた、本校ならではの教育活動の推進(☆くしま学、小中高一貫教育事業、串間、福島高校との交流活動)	11%	12%			76%	68%		11%	20%		2%	0%	3	質問9について ◎ 夏休み期間中に市内の6年生の合同学習会を実施し、多くの児童が参加することができた。合同学習会の内容等の工夫については様々な意見があるが、児童は串間中学校の生徒との交流活動を通して、これからの自分について考えを深めることができた。	◎ 6年生の合同学習会で中学生と、5年生はキャリアワークショップで福島高校の生徒との活動が実施できていることがよいと思う。市内の小中高生の交流活動が増えてきていることをうれしく思う。さらに、福島高校との交流活動を考えていくのもよいのでは。(例えば、遠足等で探検などでかけてみるなど。) ● 小中高一貫教育での取組の様子や発表の様子を学校だよりで紹介しているが、実際に見る機会がないため実感を伴っていないことが考えられる。今後は、市の取組や小中高一貫教育事業について、学校内でも共通実践し、児童を通じて家庭に理解していただく工夫が必要がある。	4
															以上により自己評価を3とした。	以上により自己評価を3とした。	